

# 題材名 「やぶいた かたちから うまれたよ」 (第1学年及び第2学年 絵や立体、工作)

## ■本事例のポイント

- 紙をやぶく際の条件を設定することで、偶然性のある多様な形を生み出すことにつなげた。
- 他者の考えに触れる鑑賞の場面を設定することで、児童の発想を広げ、学習調整を促した。



## ■題材の目標

紙をやぶいたりちぎったりした感覚や、紙の形や色から感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、手や体全体の感覚などを働かせ、表し方を工夫して表すとともに、自分たちの作品や紙などの造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、楽しく表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組む。

## ■題材の指導計画（3.0時間）

### 1. 導入 (0.5時間)

- いろいろな種類の紙を、やぶき方ややぶく時間を変えてやぶく。

### 2. 展開 (1.5時間)

- やぶってできた紙の形をよく見て、どんなものに見えるか想像する。
- クレヨン等を使って描き加えたり、紙を貼り足したりして絵に表す。

### 3. 振り返り (1.0時間)

- 友人と作品を見せ合い、表したかったことや工夫したこと伝え合う。

## ■題材の概要

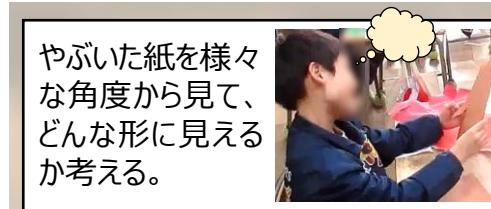
- 自分で選んだ紙を、いろいろなやぶき方でやぶく。



偶然できた形にするために、  
①目を閉じてやぶく  
②時間を決めてやぶく  
という活動を取り入れました。  
何に使うかは、秘密にします。



- 紙の形から想像したものを、描き加えたり、紙に貼り足したりして絵に表す。



グループをつくり、友人とやぶいた紙を見せ合って、何に見えるか伝え合う。



見立てた形や想像したものになるように、紙を貼り足したりクレヨン等を用いて色や模様を付けたりする。

## ■学習調整をしている子供の姿



いろいろなやぶき方を試したら、面白い形ができたよ。



### 子供が学び方を選択・決定する場面の設定



紙を回転させたり、裏返したりしてみようかな。



【 グループで形を見せ合い、自分の発想を広げる 】

この形、何に見える？



赤い象に見えたから、足を描き加えてみたよ。



友人との話も参考にして、紙を付け足したり、描き加えたりしてみよう。



## ■指導と評価の工夫

### ① 偶然の形から発想を楽しませるための手立て

- \* 画用紙、半紙、お花紙、折り紙など、材質の異なる紙を用意し、児童が自由に選択できるようにすることで、活動への期待感やワクワク感を高める。
- \* 偶然性を重視するため、目を閉じる、やぶく時間を制限するなどの条件を設定し、意図的な形にならないようにする。

### ② 形をじっくり見つめる時間の確保（個人、友人、全体）

- \* やぶいた紙の形を豊かに見立てるため、まずは個人でじっくりと形を見つめる時間を設ける。
- \* 友人と形を見せ合い、互いに見立てを共有することで、自分では思い付かなかった視点に気付き、新たな発想を広げられる場面を設定する。

### ③ 自然と友人とつながる学習環境の設定

- \* 児童の学習上の必要感に応じて、児童が自由に離席し、友人の活動を見に行くことができる学習環境を設定する。

## ■成果（○）と課題（▲）

○児童が形から見立てを行う際に、個人、友人、全体で考える場面を設定したことで、自分がやぶいた形について発想を広げ、学習調整につなげることができた。

▲やぶいた形を見立てて発想を広げることが難しい児童がいた。発想を広げやすくなるような環境づくりや、教師の声かけの更多的な工夫が必要であると感じた。